

史跡・城跡・神社・寺院

1 羽山城跡

(玉里字長倉沢)

上樋茂井野の北方の丘陵に位置し、大手門は西南端、搦手門は北東部にあったとされる。貞享元年（一六八四）葛西氏御分領中古城書上に、東西一三五丈、南北七二尺城主は角掛右近である。

菊池藏人武恒から三代、江刺氏に仕えたが、天正一八年（一五九〇）の豊臣秀吉の奥州仕置により、江刺氏と共に南部領に逃れたと言われている。角掛氏は、菊池氏と同族である。



5 守林寺跡

(玉里字青篠)

寺院跡。廃寺跡。現在地に移転する前の位置であり、西南面緩斜面の原野である。移転年月不明。



7 天正寺跡

(玉里字六百刈田沢)

寺院跡。廃寺跡。現地に墓碑群と石の地蔵尊二基がみられる。この寺について、なんら文献はないが、天正年間の存在で、天台宗であったといわれている。



8 七里塚

(玉里字大森前)

寺院跡。廃寺跡。角掛大森觀音堂付近にあり、その詳細は明らかではない。



10 八雲神社

(玉里字玉ノ木沢)

祭神は、牛頭天王と素戔鳴尊。川子野にある狐洞屋敷の助内という人が、京都祇園社の許しを得て開いた社といわれている。もとは狐洞と呼ばれていたところに、天王様として祀っていたが、度重なる山火事に遭い、現在の場所に遷し、社殿も整えて祀つたもの。



2 青篠城跡

(玉里字大松沢)

江刺東中学校の南隣の森が青篠城跡である。南方にのびる丘陵に立地しており、東西は急な崖になっている。丘陵の中腹の北西から南方にわたって空堀があり、頭頂部の平坦面は、東西三〇丈、南北八〇丈の規模である。

『仙台領古城書上』には、東西二〇間、南北六〇間とあり、菊池右馬丞を城主としている。この人は江刺兵庫守の家老と伝えられている。

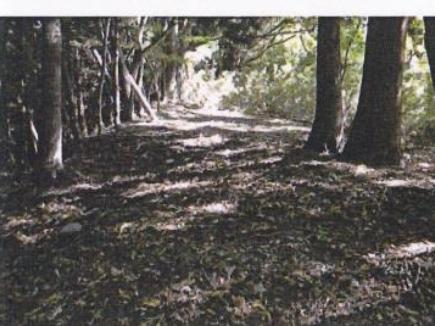


3 高間ヶ岡館跡

(玉里字高間ヶ岡)

館主及び年代等は不明である。場所は、高間ヶ岡の正光寺の向かいに位置する。館の頂上は狭いが平坦。北方は絶壁であり登頂には困難である。東に二重、西に三重、南北各一の空堀を廻らしている。

館は東、西、南ともに急崖である。北方には空堀が二重に残されている。城主の次丸道海は、江刺氏の臣下といわれる。葛西氏の臣下でもある。この館の前身は蝦夷館であったといわれている。



4 玉崎館跡

(玉里字玉崎)

万松寺山（二二五丈）の東南端に位置し、別名マトバ館。高館ともいわれている。『仙台領古城書上』に東西三六丈、南北二三・六八丈、城主は次丸道海入道とある。館は東、西、南ともに急崖である。北方には空堀が二重に残されている。城主の次丸道海は、江刺氏の臣下といわれる。葛西氏の臣下でもある。この館の前身は蝦夷館であったといわれている。

